

夏の企画展に行こう!

近世いわきの藩展Ⅱ

磐城平藩－鳥居・内藤時代－
～8月21日(金)

考古資料館 ☎43-0391

磐城平藩の歴史の中から、藩主「鳥居・内藤」時代に焦点を当て、磐城平藩に関する資料の展示・解説をします。



▲正保平城絵図控

新美南吉展

光りかがやく作品

7月4日(土)～9月6日(日)

草野心平記念文学館 ☎83-0005

「ごん狐」をはじめ、豊かな人間味にあふれる童話などを手掛けた、新美南吉の生涯と作品の魅力を紹介します。



▲新美南吉 (1931年)

虫愛づる人々

7月16日(木)～9月15日(火)

勿来関文学歴史館 ☎65-6166



虫に関する和歌やことわざ、虫模様の布製品や生活用具など、日本の生活に浸透した虫の世界を紹介します。

◀虫かご (個人蔵)

アンコール・ワットへのみち

－神々の彫像－

7月18日(土)～8月30日(日)

市立美術館 ☎25-1111



アンコール王朝時代のヒンドゥー教や仏教の神仏の彫像を中心に、その周辺の彫像や関連遺物もあわせて紹介します。

◀《プラジュナーパーラミター》バンテアイ・スレイ様式 (10世紀後半)

「アンモナイトの造形」展

形態の変化と機能美

7月18日(土)～8月30日(日)

アンモナイトセンター ☎82-4561

同センターの主要産出化石のアンモナイトを取り上げ、年代や生息環境によって変化する、形態と機能について解説し、その魅力を紹介します。



▲アナゴードリセラス (8,900万年前)

絵本・紙芝居と野村たかあき作品展

7月25日(土)～9月27日(日)

暮らしの伝承郷 ☎29-2230

子どもの遊びや家族の絆をテーマに作品を作り続けている、絵本・紙芝居作家の野村たかあきの作品を紹介します。

絵本「ないたあかおに」©講談社



進んでいます いわきの復興 ⑭

都市計画道路 関田江栗線が完成

同路線(延長686.9メートル)は、東日本大震災により甚大な津波被害を受けた錦町沿岸部から、津波被害を免れた既成市街地への接続を円滑にするための避難路として、国の復興交付金を活用し整備しました。



6月4日の完成式、幅員が10メートルに



整備前の状況(幅員2メートル)

新たな宅地供給に向けた都市計画法の手続きを開始

市は、東日本大震災以降の宅地需要の増加に対応するため、新たな宅地供給に向けた取り組みを進めています。

今回、市が「市街化調整区域における地区計画制度」の運用基準に基づき選定した候補地において、第1号となる開発事業計画の提案があり、市は地区計画の原案を作成しました。今後は都市計画法に基づく手続きを進め、来年3月ごろの宅地分譲開始を目指します。

- ▶名称 平上荒川住宅団地地区計画
- ▶位置 平上荒川字後沢の一部の区域ほか
- ▶面積 約2.3ヘクタール
- ▶予定区画数 55区画(一戸建て住宅)



地区計画予定地の一部

こんにちは市長室から ④



震災前よりも魅力のあるまち「いわき市」へ!

いわき市長 清水 敏男

東日本大震災から4年が経過し、5年目を迎えました。

私は、「復旧」はまちの機能を震災前に戻すことであり、「復興」は震災前にも増して魅力あるまちを創造していくことと考えます。

また、時を同じくして、国の「地方創生」の政策が具現化しつつあり、いわき市としても、時流に遅れることなく、今年度から「地域創生課」を新設し、庁内に「いわき創生推

進本部」、庁外に「いわき創生戦略会議」を設置して、今年度内の総合戦略の策定を目指して始動しました。

「復興」の具体的な取り組みとしては、小名浜港エリアにおいて、本年3月に新しい魚市場が完成し、現在、人工島(東港)とベイブリッジの整備が進んでおります。さらにイオンモールが完成すれば、震災復興の象徴的なエリアになると確信しています。

また、平地区において、磐城平城跡の一般公開が実施されましたが、多くの市民の皆さんが訪れ、本市の中心部にかつて存在した平城の歴史に思いを巡らせ、「平城の再興を」の声も日増しに高まっているように感じます。

来年、いわき市は50周年。次なる50年に向けて魅力あふれるまちづくりを進めます。